

埼玉県入間郡三芳町

新 開 遺 跡

— T c 区の調査 —

1 9 8 9 . 3

埼玉県入間郡三芳町教育委員会

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡三芳町大字竹間沢字新開351-1, 3に所在する新開遺跡Tc区の駐車場・資材置場造成に伴う発掘調査の概略報告である。三芳町が委託を受け、三芳町教育委員会が主体となり調査を実施した。
2. 発掘調査ならびに本報告書作成に要した費用は が負担した。
3. 発掘調査は、昭和63年6月1日～9月21日まで実施し、遺物整理・報告書作成は、昭和63年9月から平成元年3月31日まで実施した。
4. 本書の写真撮影、挿図・図版作成、原稿執筆、編集は柳井章宏が行った。
5. 本書の図版の縮尺等の読み方はそれぞれの図で示した。
6. 本書に掲載した地図は国土地理院発行の1/25,000地形図「与野」及び「志木」である。
7. 本書の作成および発掘調査にあたり、以下の方々にご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表したい。(敬称略)

会田 明、荒井幹夫、飯田充晴、石岡憲雄、井上 肇、梅沢太久夫、書上元博、小出輝雄、小淵良樹、佐々木保俊、笹森健一、斯波 治、高橋一夫、飯野 孝、田中英司、坪田幹男、早川智明、増田逸朗、横山裕平

調査組織と参加者

調査主体者 三芳町教育委員会教育長 岡村 顕
調査事務局 高橋昭夫(三芳町立歴史民俗資料館館長)
馬場初江(三芳町立歴史民俗資料館主任)
秋山伸一(三芳町立歴史民俗資料館主事補)
調査担当者 松本富雄(三芳町立歴史民俗資料館学芸員)
柳井章宏(三芳町立歴史民俗資料館学芸員)

発掘調査・整理作業参加者(調査協力員)

池上英雄、井砂トシ、一色玲子、稲田 淳、小野沢紋太郎、明松慶子、勝又節子、河野俊郎、斉藤常吉、佐藤徳子、千葉道子、椿 恵子、細沼豊次、堀籠伊三郎、真鍋紀美子、柳下ケイ子

目 次

挿図目次

例 言	第1図 周辺の地形と遺跡…………… 2
調査組織と参加者	第2図 調査区全測図…………… 3
目 次	第3図 旧石器時代遺物分布図(1)…………… 4
1, 新開遺跡の位置と環境…………… 1	第4図 旧石器時代遺物分布図(2)…………… 4
2, 遺構と遺物…………… 3	第5図 1号窯跡平面図…………… 7
旧石器時代…………… 3	
平安時代…………… 6	

1, 新開遺跡の位置と環境

三芳町の位置する武蔵野台地は、関東平野の西南部に位置し、東西約40km、南北30kmに及ぶ大規模な台地として知られる。奥多摩の山地より流れ出る多摩川の開析扇状地であるといわれ、その扇頂にあたる青梅付近で標高180mを測り、立川で約85m所沢で約60m、三芳付近で約40mと東に向かうに従い次第に低下し、武蔵野台地の東端部では標高約20mとなり荒川低地へ至る。台地の東端部には、沖積地に向かう幾つかの谷が形成されており急崖を成している。

三芳町はこの武蔵野台地の北東縁辺部に近い部分に位置しており、町西部域は標高約45mを測り、殆ど平坦な地形を呈する。一方、町東部域にはその東方の沖積地（荒川低地）に向かう谷が現在5条存在する。

この5条の谷を南からみていくと、まず、三芳町と新座市・志木市を大きく割している谷が多摩川の名残川と呼ばれる柳瀬川によって形成された谷である。柳瀬川を臨む台地上には、遺跡が連続して見られる。第1図に示した範囲で数えるだけでも左岸に11か所、右岸に3か所の遺跡が知られる。柳瀬川に面した遺跡のうち、左岸に位置する三芳町内には上流より古井戸山遺跡（38）、本村南遺跡（37）、本村北遺跡（36）、北側遺跡（35）が知られる。

次に通称唐沢堀と呼ばれる堀割を通す谷が、川越街道付近に谷頭をもち、大字竹間沢と大字藤久保の間に形成されている。以前は谷頭付近に湧水があったと聞かすが、現在は工場が建設され埋め立てられている。この谷は三芳町内において比高差約5m程の緩傾斜をもって開析し、富士見市関沢字八ヶ上付近（東武東上線みずほ台駅と鶴瀬駅の間）で江川を流す谷に合流する。この谷に沿って右岸に新開遺跡（29）がある。新開遺跡は昭和51年から調査が進められ、旧石器時代キャンプ跡や平安時代の窯跡が発見されている。対岸の三芳唐沢遺跡（28）、やや下った位置に松ノ木・唐沢遺跡（27）が存在し旧石器・縄文時代の資料が検出されている。

唐沢堀の谷と合流する江川を流す谷は、大字藤久保字東の川越街道付近に谷頭をもち、東方に延びている。この谷は、上述の唐沢堀を流す谷と富士見市字八ヶ上付近で合流し、谷幅を広げ富士見市水子字打越付近で沖積面に至る。江川水源付近の右岸には、旧石器・縄文・平安時代の複合遺跡とされる俣埜遺跡（26）が存在する。水源より開析谷はさらに奥に入り込み、谷に沿って4か所の遺跡が知られる。右岸には藤久保東遺跡（22）、藤久保東第二遺跡（23）が存在する。藤久保東第二遺跡からは、I b期からI c期の石器群が検出されている。左岸には、藤久保遺跡（25）、藤久保東第三遺跡（24）が存在する。共に旧石器時代から縄文時代にかけての遺物・遺構が検出されている。

大字藤久保字浅間付近の富士見市境にも緩やかな谷が入り込んでいる。しかし、この谷は三芳町内域にごく僅かに入り込んでいるのみであり浅間後遺跡（45）が存在する。

最後に、三芳町と大井町の行政界付近に緩い谷が形成されている。これは武蔵野台地の特徴といえる末無川の一つである砂川を流す谷である。砂川の流れる狭山丘陵に端を発するが、三芳町まで流れは至らず所沢市中富付近で消滅する。三芳町付近の砂川の谷は、雨水排水用の堀割として存在する。



第1図 周辺の地形の遺跡 (1/50,000)

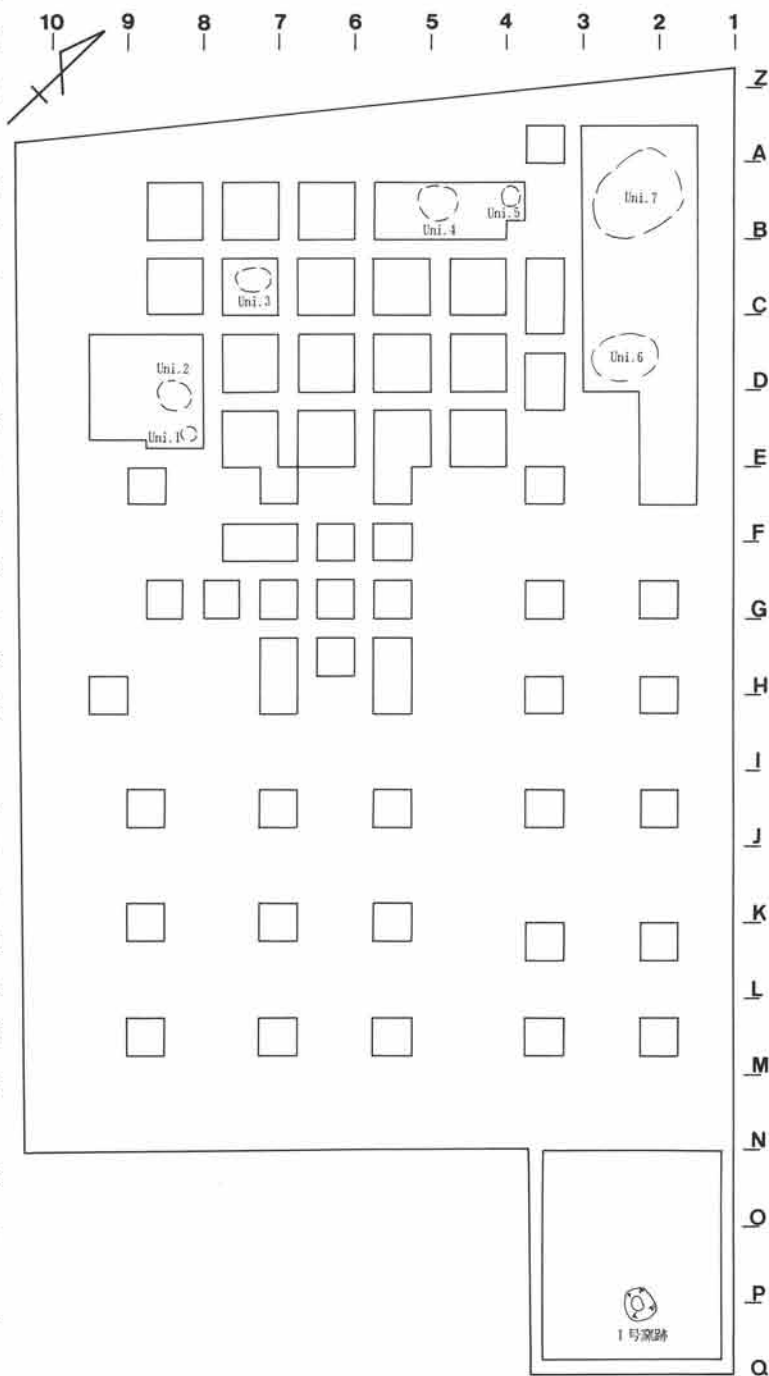
- 1, 上福岡貝塚 2, 長宮遺跡 3, 鷺森遺跡 4, 宮廻遺跡 5, 鶴ヶ舞遺跡 6, 亀居遺跡 7, 江川南遺跡 8, 西ノ原遺跡 9, 大井氏館跡・大井戸上遺跡 10, 東台遺跡 11, 貝塚山遺跡 12, 山室遺跡 13, 羽沢遺跡 14, 谷津遺跡 15, 黒貝戸遺跡 16, 殿山遺跡 17, 山崎遺跡 18, 打越遺跡 19, 水子貝塚 20, 八ヶ上遺跡 21, 本目遺跡 22, 藤久保東遺跡 23, 藤久保東第二遺跡 24, 藤久保東第三遺跡 25, 藤久保遺跡 26, 俣埜遺跡 27, 松ノ木・唐沢遺跡 28, 三芳唐沢遺跡 29, 新開遺跡 30, 東台遺跡 31, 正網遺跡 32, 栗谷ツ遺跡 33, 北通遺跡 34, 南通遺跡 35, 北側遺跡 36, 本村北遺跡 37, 本村南遺跡 38, 古井戸山遺跡 39, 生出窪遺跡 40, 新座遺跡 41, 城遺跡 42, 柏の城遺跡 43, 西原大塚遺跡 44, 下宿内山遺跡 45, 浅間後遺跡

2, 遺構と遺物

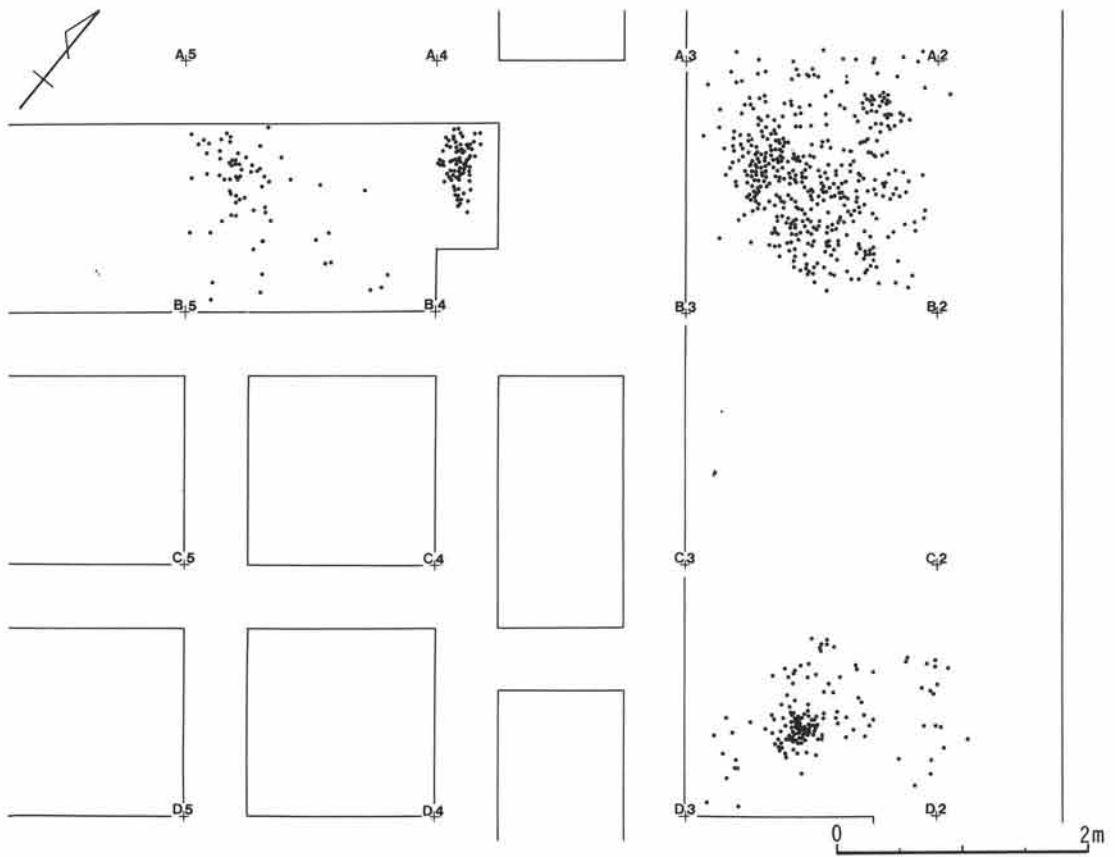
旧石器時代

調査区の北側、唐沢堀に向う台地方部A-3・4・5区、B-3・4区、C-7区、D-3区、D-8区、E-8区において第IV層下部より礫群5か所(Uni. 1~Uni. 5)および黒曜石・チャートの剥片を伴う礫群2か所(Uni. 6・Uni. 7)が検出された。遺物出土総点数は1,052点である。

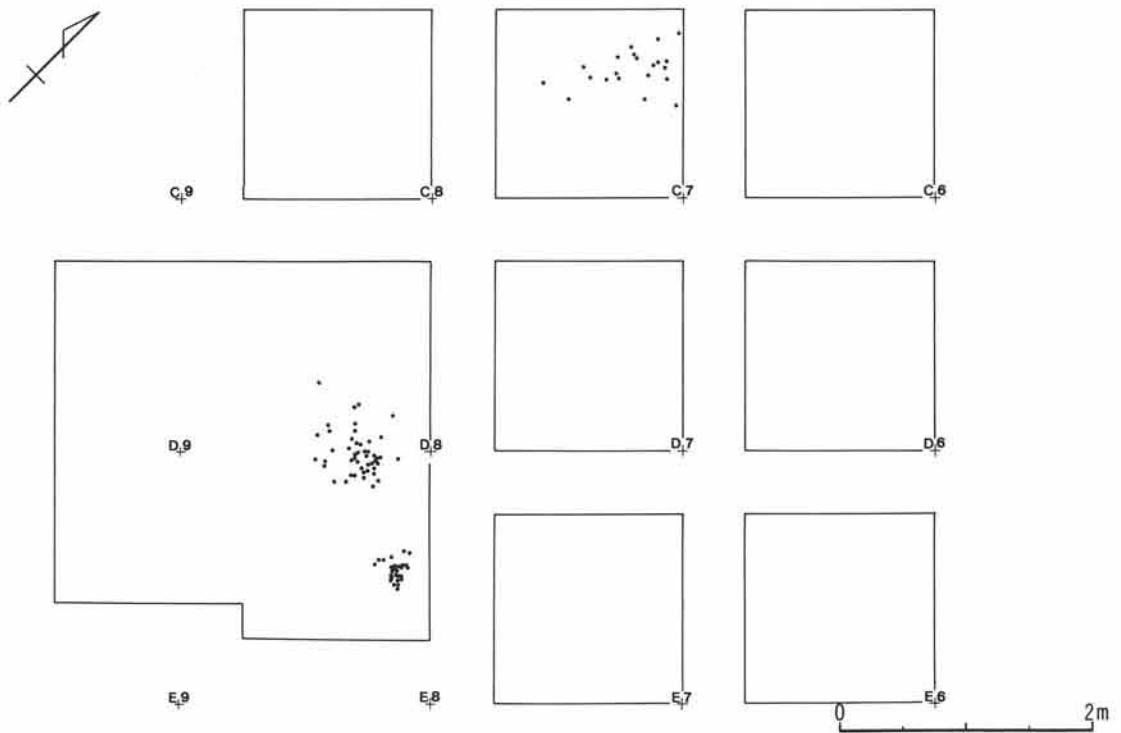
Uni. 1はE-8区に存在し、出土遺物は25点。すべて赤化した礫であり、集中して検出された。Uni. 2はD-8区に存在し、出土遺物は51点。49点が赤化した礫であり比較的集中していた。Uni. 3はC-7区に存在し、出土遺物は21点。すべて赤化して礫で散漫な分布を示す。Uni. 4はB-4区に存在し、出土遺物は95点。その殆どが赤化した礫で集中する。Uni. 5はB-3区に存在し、出土遺物は78点。その殆どが赤化した礫であり集中していた。Uni. 6はD-3区に存在し、出土遺物は211点。そのうち黒曜石剥片・破片が21点他はすべて礫および赤化した礫である。比較的まとまった分布状態を示す。Uni. 7はB-3区を中心に存在し、出土遺物は571点。そのうち82点が黒曜石剥片、3点がチャート剥片ではかほすべて礫である。



第2図 調査区全測図 (1/400)



第 3 図 旧石器時代遺物分布図(1) (1/120)



第 4 図 旧石器時代遺物分布図(2) (1/120)



Uni. 1



Uni. 2



Uni. 5



Uni. 6



Uni. 7



作業風景



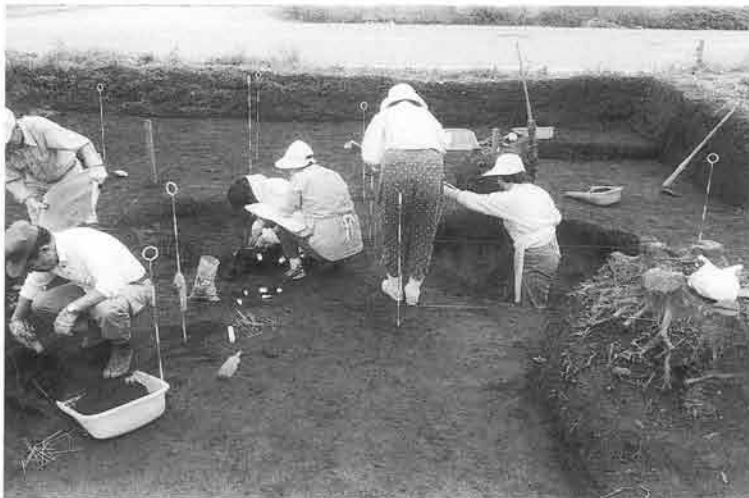
作業風景



1号窯遺物出土状況



1号窯完掘



作業風景

平安時代

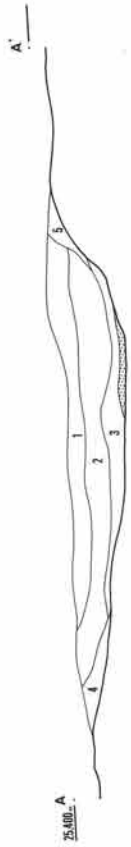
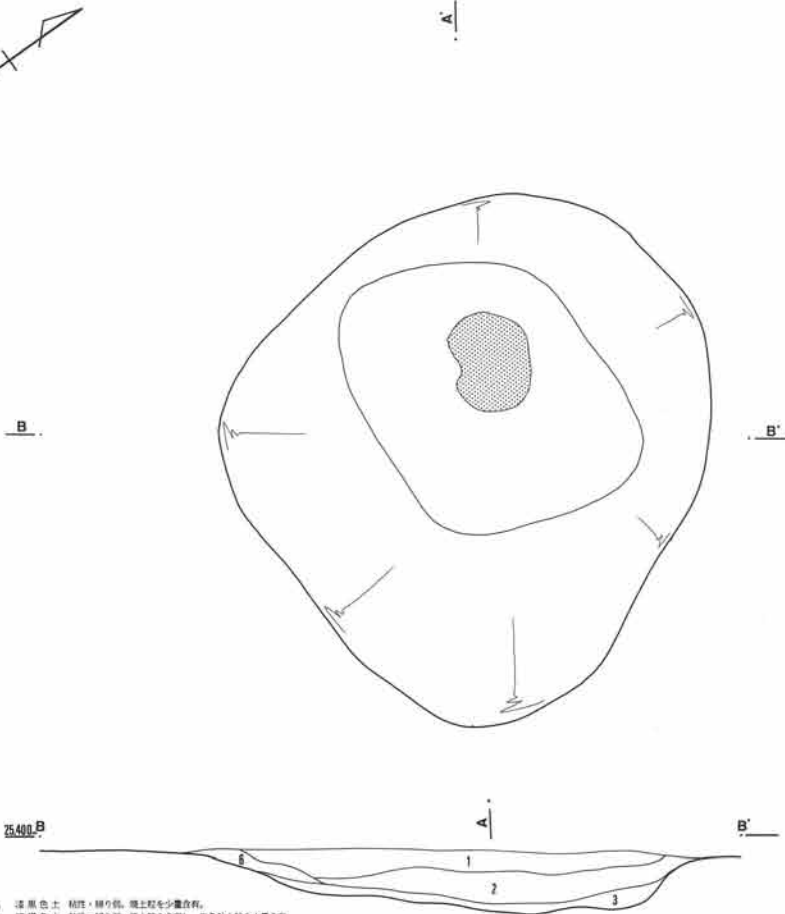
平安時代の遺構は台地肩部よりやや奥まった地点、今回調査区の南側において須恵器焼成遺構が1基検出された。調査区内よりの平安時代の遺物出土総点数は2,962点であり、その殆どが須恵器坏の破片であった。

1号窯跡は、P-2区・Q-2区に存在する。表土層を剥いだ第2層上面で確認された。

遺物はすべて須恵器坏である。平面形は長軸2.1m短軸1.9mの不整な楕円形を呈する。長軸方位はN-47°-W。確認面からの掘り込みの深さは、最深部で30cmである。壁は北側でやや角度を持って立ち上がり壁高は25~30cm、南側では緩やかに立ち上がる。底面には、焼土が集中して確認され掘り込み底面の焼土集中部下のロームは熱を受けた状態でやや焼け締まっていた。壁面および覆土中からは炭化材が検出されている。

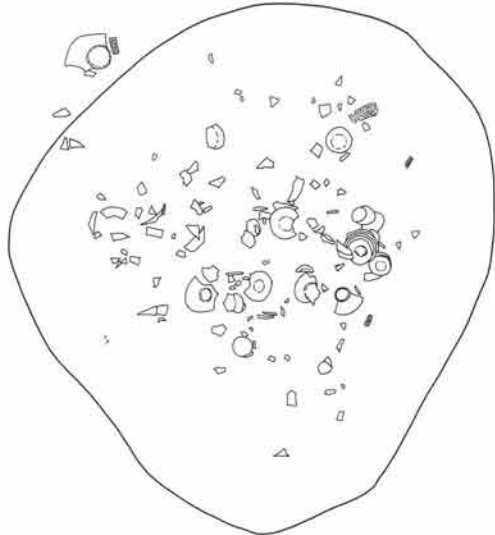
覆土は、上層部において漆黒色の締まりのないものであり、下層部においては暗褐色を呈し、焼土・炭化物・ローム粒子を含んでいた。

復元完形遺物は、須恵器坏24点で、回転糸切り痕を残すものと高台付のものがある。



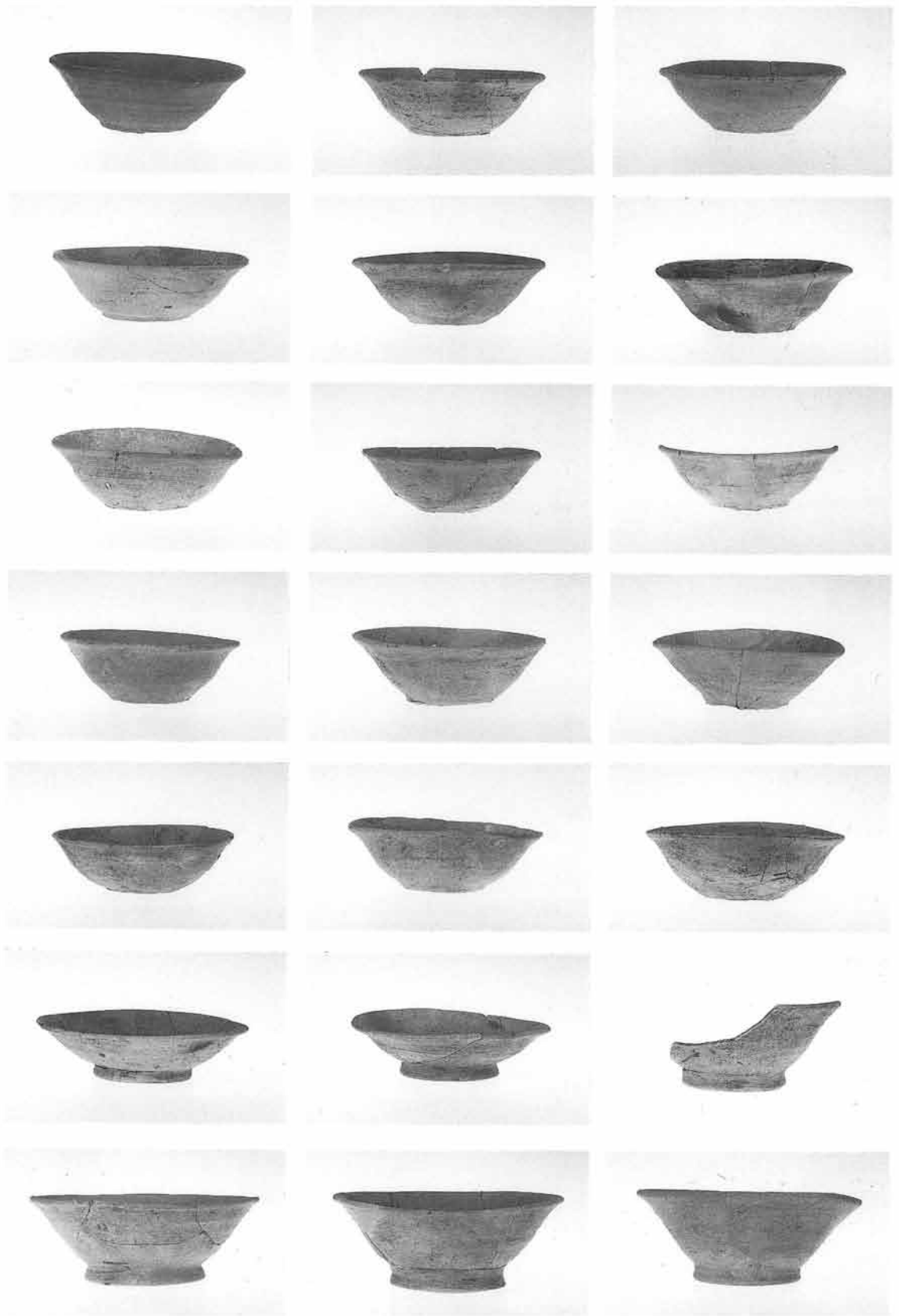
- 1. 淡褐色土 粘質・細り粗。焼土粒を少量含有。
- 2. 暗褐色土 粘質・細り粗。焼土粒を含有し、白色粘土粒を少量含有。
- 3. 暗褐色土 粘質・細りやや粗。焼土粒を多量に含有し、ローム粒を含有。
- 4. 暗褐色土 粘質・細りやや粗。ローム粒を含有。
- 5. 黄褐色土 粘質・細りやや粗。ロームブツブツを少量含有。
- 6. 暗褐色土 粘質・細りやや粗。焼土粒・ローム粒を含有。

0 1m



0 1m

第5図 1号窯跡平面図 (1/30)



平安時代出土遺物

埼玉県入間郡三芳町

新開遺跡 — T c 区の調査 —

(概報)

発行日	平成元年3月31日
編集	三芳町立歴史民俗資料館 三芳町大字竹間沢887番地 TEL 0492-58-6655
発行	三芳町教育委員会
印刷	新日本印刷株式会社